



千葉県を“有機の里にする”

千葉県有機農業推進協議会と“ちばだん”の活動

徳江倫明

一般社団法人フードトラストプロジェクト

From Pure Soil

一粒の活きた土が育てる、おいしい野菜や果物。

美しい大地と、何億もの命をはぐくむ一粒の土を守る、それが Food Trustの想いです。

2018年2月設立

2020年度の取り組み

オーガニックビジネス
実践拠点づくり事業

有機農地集約化
試行支援事業

千葉県有機農業推進協議会とは

千葉県の第一次産業活性化、特に有機農業への新規参入・転換を促進させ、有機農業を面的に拡大させること、農業者を中心とした地域の担い手の育成及び環境保全・地域経済の活性化をはかることを目的とし、平成30年2月に発足。下記の5点をテーマとし、多様な取り組みを行っています。

1. 有機農業を目指す新規就農者および有機農業への転換者を増やし、有機農業の圃場面積を拡大する。
2. 有機農業に関する技術情報・資材情報の共有、及び有機農業に関する技術研修のため、フォーラム・シンポジウム・セミナー・産地研修会等を開催。
3. 堆肥その他資材の共同生産・使用に関する体制づくりを準備。
4. オーガニックマーケットを分析し、販売団体と生産者とのマッチングを推進。
5. 地域ごとに物流の共有化をはかり、コスト構造の効率化に繋げる。

※平成30年度および平成31年度の農林水産省「オーガニック・EC農産物安定供給体制構築事業」において、「オーガニック・エコ農産物安定供給体制構築事業」および「オーガニックビジネス実践拠点づくり事業」の実施主体として採択されています。



千葉県有機農業推進協議会



会長 下山 久信
事務局長 徳江 倫明

事務局

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 内外ビル7F
一般社団法人フードトラストプロジェクト内
TEL: 03-6821-4219 MAIL: chibayuuki@food-trust.jp



千葉県有機農業推進協議会の活動

これまでの主な活動

2018年 5月 於:山武市(富谷亜喜博氏園場 他)
土づくりのための技術指導(有機農業への転換のための土づくり)

2018年 9月 於:山武市市役所大会議室
千葉県を有機の里にするインフラづくりフォーラム

2019年 1月 於:亀田医療大学みずきホール
第2回千葉県を有機の里にするインフラづくりフォーラム
訪問学習会&シンポジウム「学校給食が地域を変える!」

2019年 3月 於:ピオセボン麻布十番店・クレヨンハウス 他
市場ニーズを把握するためのオーガニックマーケット視察
有機農産物の流通における課題把握のための意見交換会

2019年 3月 於:さんぶ野菜ネットワーク会議室
農場経営のノウハウを習得するための講習会
有機JAS法の理解のための講習会

2019年 3月 於:千葉市生涯学習センター
第3回千葉県を有機の里にするインフラづくりフォーラム
「オーガニックマーケットは広がる!」

※その他、ネットワークづくりのための自治体訪問、
団体連絡会設立に向けての意見交換会など。



市庁訪問



土づくりのための技術指導

クレヨンハウスにて意見交換会



オーガニックマーケット視察

有機JAS法の理解のための講習会



訪問学習会&第2回シンポジウム

第3回フォーラムの様子

《参加・協力してくださった団体・自治体・企業など》(順不同)
農林水産省生産局農業環境対策課・千葉県農林水産部安全農業推進課・千葉市・山武市・鴨川市・木更津市・いすみ市・南房総市・佐倉市・八街市・君津市・市原市・勝浦市・関東農政局・千葉県庁農林総合研究センター・イオン株式会社・株式会社こだわりや・株式会社ナリタヤ・一般社団法人ホールフード協会・株式会社山下食品・認定こども園 吉見光の子 モンテッソーリこどもの家・農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク・市民エネルギーちば合同会社・NPO法人大山千枚田保存会・「里のMUJI みんなみの里」(株式会社良品計画)・鴨川自然王国・三好村生産グループ・農業法人シェアガーデン八街・ピオセボン麻布十番店・福島屋六本木店・クレヨンハウス・こだわり屋新宿店 他

今後の主な活動予定

2019年 8月 於:オーガニックライフスタイルEXPO2019
千葉県産有機農産物推進協議会ブース出展
※千葉県の有機農業生産者にブースを無料で開放
千葉県産有機農産物マッチングフェア

2019年 8月 於:山武市内園場
生産技術講習会

2019年 9月 於:山武市内会場
栽培技術・経営講習会

2019年 9月 於:八街市内会場
物流についての意見交換会

2019年 10月 於:山武市内会場
有機JAS認証制度の理解増進研修会

2020年 2月 於:千葉県内会場
栽培技術フォーラム

.....



千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域） 昨年度の実績

協議会の構成員

農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト、木更津市、山武市、市原市

生産概要（2020年3月）

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ■ 取組面積 | ■ 栽培品目：にんじん、アスパラガス、トマト等 |
| 有機農業取組面積：86.3ha | ■ 有機農産物の販売額：14,700万円 |
| うち有機JAS取得面積：46.3ha | ■ 構成員の主な取引先：30箇所 |
| ■ 有機農業者数：56名 | （生協、スーパー、農協直売所 等） |

成果（2018年→2019年）

木更津市において有機米の取り組みが開始され有機農業者が増加した

- ・ 有機農業者数の増加：52名 → 56名

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 有機農業の新規参入者の増加に向けた取組

- ・ 新規就農者及び転換者等を対象に、栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会を実施した。堆肥の利用による土づくりの栽培マニュアルを作成し、千葉県全域の有機農業者・新規参入者等に配布するなど、有機農業の担い手を育成。南房総市と協業し有機農業への新規取組者を掘り起こすために研修会を計画した(コロナで未実施)

■ 有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組

- ・ オーガニックライフスタイルE X P Oへ出展し、有機農業者のアピールを行った
有機農業者とバイヤーのマッチングを行った。
展示会やマッチングに参加することで、有機農業者同士の横のつながりもでき、情報交換できた
- ・ 有機米を学校給食へ提供することを目的として、栽培技術の確立・推進体制の整備・栽培に係わる資機材の導入支援・教育委員会等との連携を行った。（具体的内容の追記）
進捗状況・情報交換など打合せを4回行った（構成員会議）



（意見交換会の様子）

事業3年目の取り組み

取組の実施時期	取組の実施時期
2020年5月	会議：協議会構成員を中心に行う。事業目的、事業計画、スケジュールの確認と役割分担の検討と決定
2020年8月	経営力向上・表示制度に係わる講座
2020年8月	会議：事業推進計画の進捗確認
2020年8月	生産・出荷効率化に係わる講習会＋先進地視察
2020年9月	経営力向上・表示制度に係わる講座
2020年9月	オーガニックライフスタイルE X P O 出展
2020年9月	EXPO会場内 販売戦略等に係わる意見交換会
2020年10月	学校給食拡大の為にフォーラム開催
2020年11月	会議：事業推進計画の進捗確認
2020年11月	経営力向上・表示制度に係わる講座
2021年2月	会議：事業推進計画の進捗確認、事業まとめ
2021年2月	経営力向上・表示制度に係わる講座
2021年2月	成果報告会
2021年2月	栽培技術向上のためのマニュアル作成・配布

2020年2月設立

現在自治体会員

1. 木更津市
2. いすみ市
3. 山武市
4. 茂原市
5. 南房総市

“有機の里づくり”千葉県団体連絡会

活動目的

1. 新規就農者・有機農業への転換者に対し、有機農業に関する技術情報及び研修システムの共有化を進める。
2. 各自治体の新規就農者受け入れ情報を集約し、紹介する。
3. 有機農業及びオーガニックマーケット拡大のため、物流整備を図る。
4. 保育園・幼稚園・学校給食などに地元産、県産有機農産物の導入を推進する。
5. 直売所・スーパー・中食などへの地元産、県産有機農産物の紹介を行う。
6. アジア地域では自治体主導型有機農業政策のネットワークであるALGOAが設立されている。千葉県でも各自治体が連携し、有機農業普及のためのネットワークを構築することで、日本だけでなくアジアおよび世界における有機の里づくりのモデルとする。
7. 世界ではオーガニックの市場が飛躍的に拡大しており、もはやメインストリームになりつつある。成田空港や羽田空港からのアクセスが良く、インバウンドの拠点となり得る地の利を活かし、空港を中心に宿泊施設などで有機農産物の提供を行い、「オーガニックなおもてなし」をコンセプトにした地域おこしを実践。有機の里・千葉として世界に情報発信していく。

【対象者】

生産者（個人・団体）、消費者（個人・団体）、自治体、流通団体、販売者（個人・団体）他、千葉県における有機農業を拡大・推進したいと考える方なら、どなたでも。

【年会費】

会 員：一口（5万円）以上、何口でも
団体サポーター：一口（1万円）以上、何口でも
個人サポーター：一口（3千円）以上、何口でも



ご加入のお問合せ・お申込み

“有機の里づくり”千葉県団体連絡会 事務局

東京都中央区八丁堀 2-22-8 内外ビル 7F
千葉県有機農業推進協議会 事務局内
TEL:03-6821-4219
MAIL:chibayuuki@food-trust.jp



“有機の里づくり” 千葉県団体連絡会



千葉県を、日本における有機農業の中心地に

会員募集中

2019年11月 設立準備会発足
2020年4月 活動開始

オーガニック & ローカル
ちばだん

“有機の里づくり” 千葉県団体連絡会 企画書（草案ver.7）

SDG s 時代に
千葉県を世界に誇る『有機の里』に
「オーガニック・ビレッジCHIBA」構想

■ “有機の里づくり”千葉県団体連絡会 概要

“有機の里づくり”千葉県団体連絡会とは

千葉県の有機農業を実践またはサポートする生産者、生産者団体、自治体、研究者、指導員、流通や小売に関連する事業者、消費者団体などの“オーガニック・プレイヤー”が連携・協働し、以下目的達成のための相乗効果を発揮する緩やかなネットワーク

設立目的

1. 千葉県の新規就農や転換希望者へのスムーズな**有機農業参入・実践サポート**を通して、
2. 千葉県の環境保全及び持続可能な地域づくりのための**有機農業の拡大**を図るとともに、
3. 千葉県を**“有機の里”**として日本及び世界に**情報発信**するための取組を推進する

設立背景

千葉県全域で有機農業への新規参入・転換を促進させ、有機農業を面的に拡大させることを目的とした千葉県有機農業推進協議会（平成30年2月発足）の呼びかけにより発足。「有機農業」は、気候変動などへの有効な対策であると同時に、土壌の質の改善、生態系の保全、生物多様性と種の多様性の実現などの課題を解決するものであり、持続可能な食糧生産システムである。こういった社会的側面に加え、食の安全やおいしさを求める消費者需要を背景に、新規就農者の30％は有機農業を志し、既存農家の32％は条件が整えば有機農業に転換する意思を示している。こうした時代の状況を鑑み、千葉県内の37市16町1村の自治体をはじめ、「農」や「食」に携わる様々なステークホルダーが、「有機農業」に関する情報、取り組み、支援・サポートなどにおいて連携することで、有機農業の拡大をより一層力強く推進したい。

課題と取組みの柱

主要課題

有機農業への新規就農や転換を希望する者が、十分かつ一元化された情報やサポートを得られておらず、参入障壁となっている。

取組みの柱



包括的な「情報プラットフォーム（ホームページ）の構築・運用」

新規就農者の受け入れ状況や利用可能な農地、農業技術研修、住宅支援や助成金などの生活面サポート等に関して、各自治体や市民団体等が情報提供を行える共通オンラインプラットフォーム（ホームページ・SNS等）を整備。販路や物流に関するタイムリーな情報等も、流通事業者等からの随時発信により入手が可能に。



有機農業への参入希望者（新規就農・転換者）に向けた共通「“入口”支援」

千葉県には多様な農業形態が存在し、参入希望者が個々に希望する農業かつ生活スタイルに合った市町村・地域を選択する難しさがある。そこで「入口支援」として、自治体が共通で活用でき、かつ参入希望者が検討初期段階で必要な情報やサポートが受けられることを目的に、有機農業マップなどを通して地域情報を整理し、農業技術だけでなく、実践者のリアルな体験談なども学べる共同研修コンテンツ等を開発・提供。



個別プロジェクトの企画・推進で「多様な“出口”の構築」

大都市東京の生活圏内であり、成田・羽田空港が隣接するうえ、日本第3位の農業生産高を誇る千葉県ならではのオーガニック＆ローカルな生産・消費フードシステムの実践事例づくり

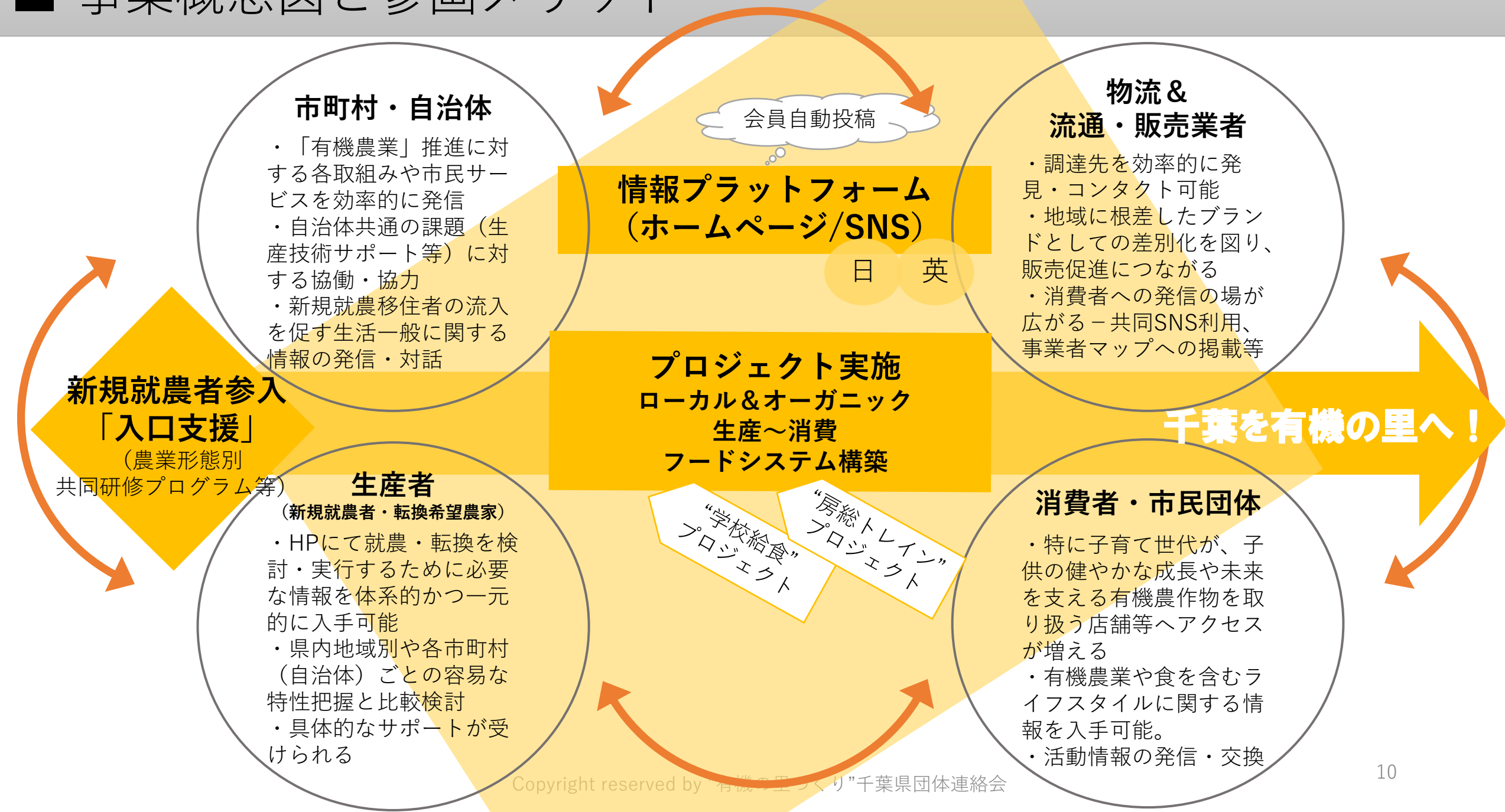


多言語情報発信 * 英語

オーガニック＆ローカルな「食」と「滞在」を求める、国内外からの国際的な観光客へ向けた多言語情報発信

[実践1] 房総オーガニック“トレイン”プロジェクト
[実践2] オーガニック学校給食プロジェクト

■ 事業概念図と参画メリット



■ 実践事例：オーガニック学校給食プロジェクト

コンセプト

全国初、千葉県全体でオーガニック学校給食に取り組もう！

背景

千葉県には、取り組み開始からたったの4年後の2017年10月、市立13小中学校で**全国初学校給食100%有機米へ切替え**、野菜も全オーガニック調達を目指す**オーガニック学校給食の先進地いすみ市**がある。また**有機産消”提携”50年の南房総市三芳村生産者グループ**は田無市にある保育園と“提携”しオーガニック給食を実現している。佐倉市の吉見光の子保育園はエディブルスクールヤードを目指し、有機農園の運営とともに100%オーガニック給食を実現している。さらにALGOA(アジア有機自治体ネットワーク)に参加する木更津市は“オーガニック”をコンセプトにした街づくりに挑戦しているなど、生活者特に子どもを持つ世帯を巻き込んだ先進的「オーガニック」推進取り組み実績を持つ自治体や生産団体などが存在。

目標

いすみ市など先進的取り組みをモデルケースに、千葉県の37市16町1村を対象に横展開を働きかけ、

1. オーガニック学校給食の取り組みを開始し、
2. 生産地域の有機農業面積の拡大と安定的な供給を促すと共に、
3. 自治体・地域間で横の連携を図り、都市部（千葉市、習志野市等）も含め、食材をできるかぎり県内オーガニック調達を目指す。…農業条件や歴史的背景、農業人口の違いから各自治体・地域が得意としている作物があるため、その特性を活かし、県内連携を強めることが成功の鍵となる。



出典：「給食、全て有機米に 全国初、いすみ市が実現」
千葉日報オンライン, 2017/10/27(最終閲覧日2019/11/14)
<https://www.chibanippo.co.jp/news/local/449327>



出典：いすみ市役所HP

■ 実践事例：房総オーガニック“トレイン”プロジェクト

コンセプト

オーガニックトレインが「生産」「物流」「消費」の壁を突破する！

小湊鐵道・いすみ鐵道沿線を「オーガニック生産ゾーン」に！同社が運営する路線バスも合わせて物流の手段として活用。有機・自然栽培農産物を消費地へ運ぶ。定期販路として、木更津オーガニックマーケットやスポーツ施設関連、東京卸売太田市場、千葉市も近郊に。**ローカルトレインが可能にする、ローカル&オーガニックな生産・消費フードシステム構築プロジェクト。**

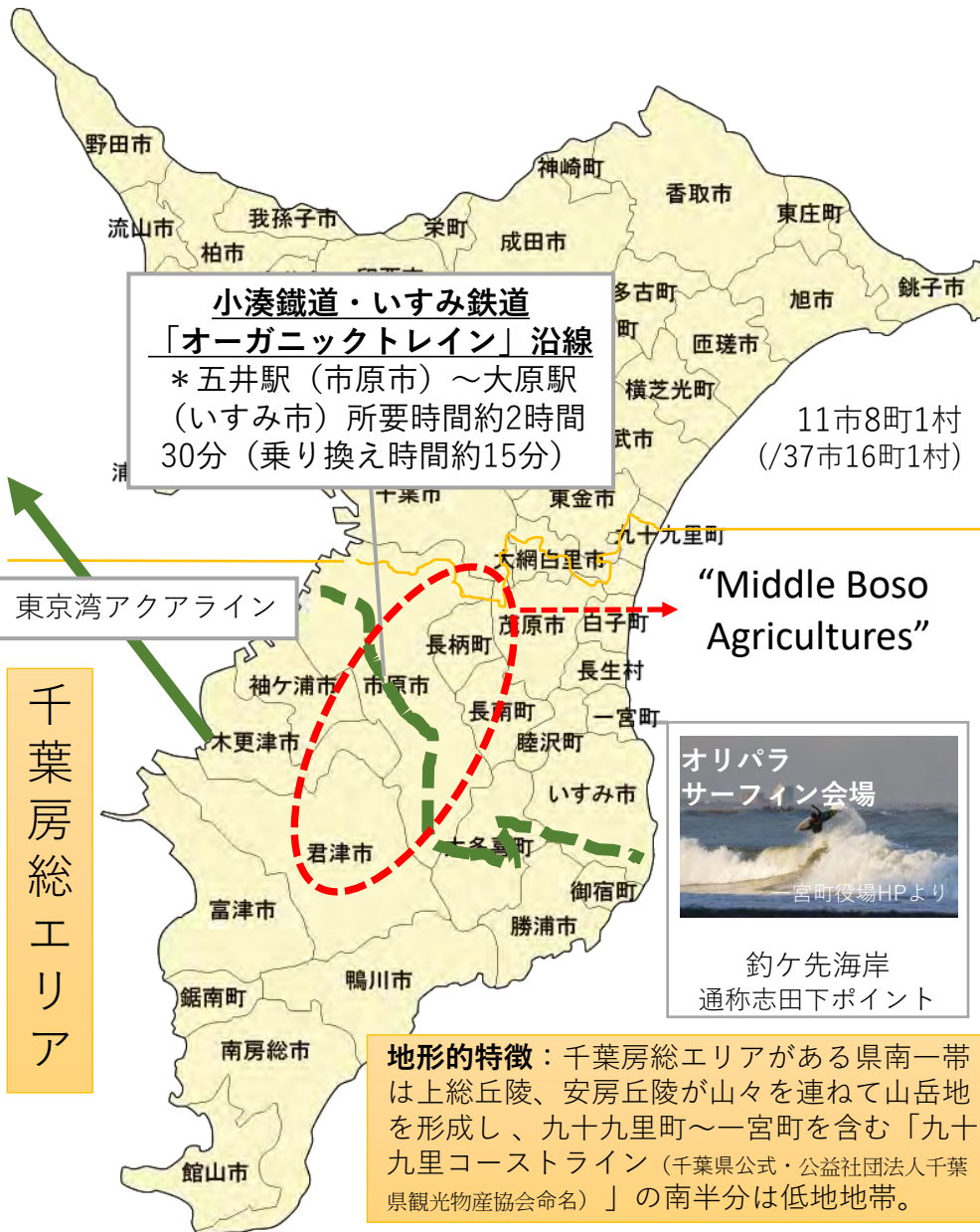
活動内容

- ① オーガニック食材調達用ローカル物流の整備と販路開拓
- ② 訪問者への移動手段の提供
- ③ オーガニック関連イベントの実施

期待される効果

沿線の有機農業面積の拡大、消費の拡大等に加え：

- ✓ 2020東京オリンピック・パラリンピックサーフィン会場に選ばれた一宮町をはじめ、従来からスポーツ・研修合宿施設が充実しているコースト地域がある。大会に参加する国内外からの訪問者や、合宿に参加する子どもたちに対して**食事を提供するスポーツ合宿施設（民宿等）において、世界の常識になりつつある「オーガニック（特に県内産）」調達を実現し、差別化を図ることができる。**
- ✓ **子育て世代のI/Uターンの促進。**特に心身共に健やかな成長を家庭や社会が保障すべき子どもにとって、有機農産物やオーガニック商品の優位性や必要性が、化学的根拠を持って明らかにされ始めている。
- ✓ 大都市東京や空の玄関である成田・羽田空港から近距離であるにも関わらず、海と山がある美しい自然とそこで育まれた**「農」のある風景と風土の「食」を守り、観光資源としても価値※を高める。**（※参考Pg.7）



■ "ちばだん"基準とブランド化（ローカル＆オーガニックの県内普及）

